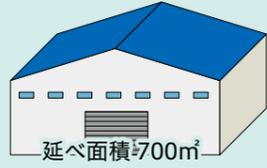




知らない間に重大違反!? 屋内消火栓設備の設置基準 2 建物構造が変わる場合

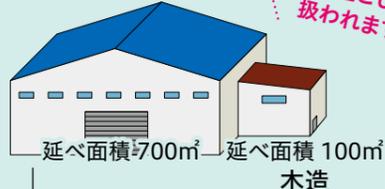
〈例〉鉄骨構造(準耐火建築物)の場合



延べ面積700㎡

屋内消火栓設備の設置義務無し
準耐火建築物は1,400㎡以上で設置義務

木造倉庫を増築



延べ面積700㎡ 延べ面積100㎡ 木造

木造800㎡として合算

屋内消火栓設備の設置義務有り
木造は700㎡以上で設置義務

木造として扱われます!

設置を怠ると重大な消防法違反になりますので、増築や改修時は事前に消防本部予防課へ相談してください。



毎月一回 定期開催
応急手当講習

心肺蘇生法、AED使用方法、異物除去方法、止血法など
開催日時 1月17日(日) [毎月第3日曜日]
午前:2時間 午後:3時間
お問い合わせ | 警防課救急係 ☎42-3952



問予防課 ☎42-3951
お太助フォン42-3952

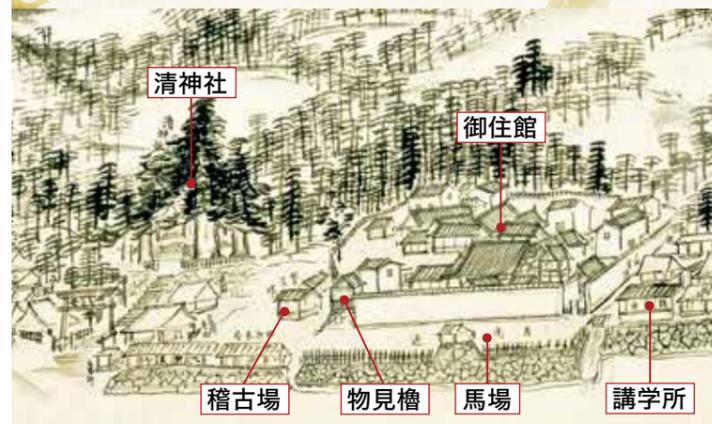
歴史紀行

シリーズ
「博物館コレクション」第15回

ごじゅうかんず
御住館図



安芸高田市歴史民俗博物館
学芸員 津久井 薫



中心部拡大図



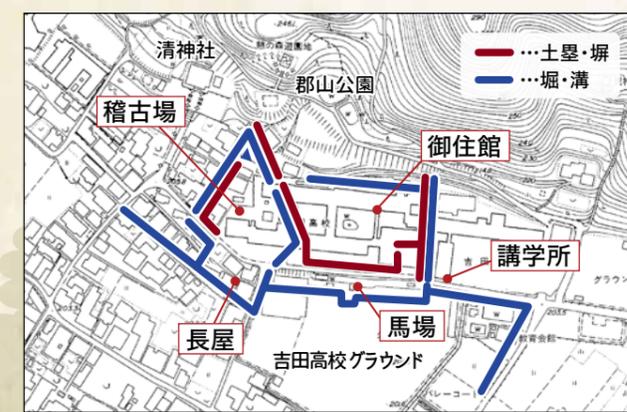
「御住館図」(紙本墨画 57.5cm×130.7cm)

「御住館図」は1864(元治元)年に制作された、広島吉田支藩の陣屋「御住館」を描いた鳥瞰図で、実際に見なければ描けない建物の上部構造を知ることができる貴重な資料です。
図中、郡山麓の中央に位置する、塀に囲まれた建物が「御住館」で、周囲には講学所、稽古場、馬場、物見櫓が描かれており、稽古場の西側には清神社も見られます。
図の右上には「朝散大夫 近江守 源長厚公 御住館之図 元治元年甲子」とあり、広島藩主浅野長訓の甥、浅野長厚の陣屋であることが示されています。

歴史的背景

江戸時代、広島藩浅野氏には江戸の青山に支藩がありましたが、文久の改革(1862年)で幕府の統制力が緩むと、朝廷の命で広島支藩当主の長厚は帰藩することになります。その際、陣屋として築かれたのが御住館です。
幕末維新期の史料『芸藩志』(1896年完成)では、長厚の帰藩先に吉田の地が選ばれた理由として北方警備と民衆対策を挙げています。
当時の吉田は、元就を神格化する聖地として、長州藩士の墓参りが盛んでした。吉田の民衆がこれを歓迎

していたことも、浅野氏がこの地を選んだ理由と考えられます。
こうして1863年末に長厚は吉田に入り、翌年5月に御住館は完成しました。
明治後の御住館
明治維新後の版籍奉還で吉田支藩は消滅しますが、建物は1887年まで小学校として使用され、その後解体、払い下げられました。
現在は、物見櫓が吉田町法門寺に、館内の門は甲田町教徳寺に、裏御門は甲田町日野家に移築され、かつての敷地には、吉田高校が建っています。



「御住館」推定位置図(当館図録「幕末広島吉田支藩と御本館」より)

異文化と暮らす 私たちにできること

世界の家庭料理がすぐそばに?



(文) 人権多文化共生推進課 多文化共生推進員 明木 一悦

人権多文化共生推進課
お太助フォン 42-5630 ☎47-1206

私は時折、いろいろな国の料理が食べたくなります。特に温かみのある家庭料理が好きで、これまで各国の美味しい家庭料理を食べてきました。でも意外かもしれません。世界各国に行くと食べたいかというところではありません。実は安芸高田市に住む皆さんにもチャンスはあるんです。
現在安芸高田市には、アジア、アフリカやヨーロッパ、北米、中南米など25か国の方が住んでいます。人口も800人を超え、市の総人口の2.8%になりました。と、いうことは50人に1〜2人の割合で外国の方が一緒に暮らしていることとなります。
もうあなたの隣には、外国の方が暮らしているのです。

もうお分かりかと思いますが、そうです!すでに皆さんが持っている外国の方との接点を生かして、身近な外国の方と触れ合い、あいさつを交わして顔見知りになり、地域行事と一緒に参加する。そしてお互いが家庭料理を持ち寄って、料理と笑顔を交わしてみることで、市内にいてもさまざまな国の家庭料理を楽しむことができます。現に、私はわざわざ遠くまで行かなくても地域の中で、ベトナム、タイ、インドネシア、中国、イタリア、アメリカ、フィリピン、韓国、ブラジルなどいろいろな国のとてもおいしい家庭料理を食べることができています(笑)。